

## 目次：

第3回聖学院大学  
英語スピーチコン  
テスト P1

さようなら、交換  
留学生。また会う  
日まで。 P1

春期海外研修  
オーストラリア  
研修感想 P2  
P3

学生国際交流委員  
「日本の婚活」 P3

日本の家庭に1日  
ホームステイ P3

留学生数・出身国 P4

お知らせ P4  
行事予定

## 第3回聖学院大学英語スピーチコンテスト

6月10日（水）英語教育委員会・国際部委員会共催の第3回聖学院大学英語スピーチコンテストが開催されました。選考で選ばれた最終弁論者8名が「私の異文化体験」「未来の私」「世界の中の日本ー私のイメージ」「私の主張」のテーマに自らの異文化体験、自らの主張を熱弁しました。

スピーカーたちはコンテスト中、最高潮に緊張しているにも関わらず、各々のスピーチが終わるたびに健闘を称え合う素晴らしい勇姿ぶりでした。

スピーチは、全体の構成、内容、話し方、印象、長さなどを総合的に評価されます。表彰式では、受賞者を読み上げるごと

に500名を超える聴衆の歓声がチャペルに響き、緊張がとけたスピーカーたちの、喜びの涙の受賞式となりました。

## 表彰

学長賞（2名）

欧米文化学科4年 下田昭次さん

“Never Give Up”

児童学科1年 山崎裕太さん

“My Volunteer Experience at a  
Nursery School”

英語教育委員長賞

欧米文化学科3年 角亜衣子さん

“My Cross-Cultural Experience”

国際部長賞

欧米文化学科4年 Shrestha Jeevanさん

“My Cross-Cultural Experience  
in Japan”



最終選考に選ばれた8名のスピーカー

## さようなら、交換留学生。また会う日まで。

7月、提携大学である韓国・<sup>ホソ</sup>湖西大学校から日本文化学科に留学していたキム・ジュヨン (Kim Ju Young) さん【2008年度秋学期～2009年度春学期間留学】と欧米文化学科に留学していたアメリカ・ラグレインジ大学のマシュー・ランドラム (Matthew Landrum) さん【2009年度春学期間留学】の留学期間が終了しました。

7月24日、2人のホストマザーである粕谷小夜子さんの主催で地元公民館において、送別会が開かれました。留学生や地元の方々の手

作り料理あり、新しい出会いありの、にぎやかな別れの時となりました。日本語が本当に上達した2人の母国での活躍をお祈りしています。



キム・ジュヨンさん  
(左：韓国・湖西大学校)  
マシュー・ランドラムさん  
(右：米国・ラグレインジ大学)



真中下：ホストマザーの  
粕谷小夜子さん

## 重要なお知らせ：

2009年6月1日より、聖学院国際センター事務室は、聖学院大学国際協力課へと部署名が変更となりました。

事務室は、8号館1階に移動しました。

## 春期海外研修オーストラリア・ディーキン大学

2009年2月10日～3月22日の40日間、オーストラリア・ビクトリア州メルボルン市にあるDeakin University English Language Instituteにて、英語研修・ホームステイを実施しました。

### 欧米文化学科3年 仲村 由子

私にとって今回のオーストラリア研修が初めての海外渡航だった。そのため、一人でバスに乗り、トラムに乗って学校へ行くことだけでも不安や驚きがたくさんあった。

ディーキン大学での授業で特に苦労したのがクラスでディベートをしたことだ。始めは一对一で行い、それが徐々に人が増えていくというようにやっていったのだが、一对一の2人だけでやる場合は自分の意見をどうにかして伝えるが、それが大人数でやるとなると、他のクラスメイトが討論を進めていくし、言いたいことがあるがどうやって話に入っていけばよいのか分からず黙ったままになってしまった。言いたくても英語を作ることが難しく、結局何も言えずに二言三言で終わってしまった。その後、先生から討論に参加し何か言いなさいと言われて、他の学生たちも話を振ってくれたので後半のディベートは前に比べると良くなったのではないと思うが、ほかの人と比

べればまだまだだと思った。本当にあの時は話に入っていけない自分にも、また話せない自分が本当に悔しかった。英語を学ぶために来ているのにも関わらず、話すことをためらっている自分がとても嫌だった。

文化の違う国で生活をして改めて感じたことは、人は違う文化で暮らしていても、根底は一緒で、挨拶などのコミュニケーションをとる事は本当に大切なのだと思った。言わなくても伝わることはあると思うが、それは長年一緒にいる家族などで、初めて会ってお互いをよく知らないうちはたくさん話していくことが重要なのだと思った。特に言葉がまだまだ完全ではないので、誤解をされるようなことを言うこともあるだろうし、分からなくて怒っているのかなと誤解してしまうこともあると思うが、それでも話さないと何も始まらないと思った。コミュニケーションをとっていくことによって、お互い理解が深まっていくのだと感じた。



一番右が仲村さん



Melbourne, Victoria, Australia

歴史的な建物や文化が残り、のんびりして住みやすいことから、「世界で最も暮らしやすい都市」1位にランキングされている。

**驚き、不安、悔しさ。  
話さないと何も  
始まらない、  
コミュニケーションで  
理解が深まっていく  
とわかった。**

## 第10回児童学海外研修オーストラリア・フリンダース大学

第10回児童学海外研修は、2009年2月12日～3月13日にオーストラリア・南オーストラリア州アデレード市フリンダース大学 (The Flinders University) で実施されました。この研修は、児童学科学生のために幼児教育について体験できるプログラムです。オーストラリアにおける幼児教育の語彙、概念、歌、遊び、工作を英語で学び、幼稚園や小学校を訪問しての実習も行いました。ホストファミリー宅に滞在し、課外活動ではオースト

ラリアの大自然を満喫できる小旅行が実施されました。

- ・小学校、幼稚園訪問・実習
- ・カンガルー島への1泊旅行
- ・ビクターハーバー日帰り旅行
- ・アデレードヒルズとムレー川日帰り旅行
- ・グレネルグ・シーサイド・リゾート
- ・ホストファミリーとビーチピクニック
- ・ウォータースポーツ
- ・シティーツアー
- ・ハンドロフ農場見学
- ・お別れパーティー など



## 初めての海外、初めての実習

## 児童学科2年 大堀江美子

この海外研修で、初めての海外、初めての実習を体験しました。

現地の授業では、先生が一人一人に話しかけ、子どもに関して分かりやすく説明してくれ、大変勉強になりました。また、海外に出て実習することで、日本とオーストラリアの教育の違いを見ることができました。例えば、やりたいことをさせるなど、子どもの自由さが違いました。幼稚園の実習だけではなく、小学校での実習に行くことができ、現地の先生

を見て習うことで子どもとの関わり方を学ぶことができました。英語について言えば、相手の言っていることが聞き取れるようになり、会話は少しできるようになりました。

ホストファミリーは、シングルマザーの家庭で3人家族でした。私の日本の家族は5人で大きな家族なので初めは不安で家に帰りたいたと思いましたが、家族みんなが盛り上げてくれ、日が過ぎていくと共に帰りたくなりませんでした。

今回、引率の先生方や先輩と親しくなり、共に実習の準備をし、教えていただくことが多く、研修に参加して本当に良かったと思います。



右が大堀さん



フリンダースでの授業の様子

## 学生国際交流委員による「日本の婚活」授業

本学の学生国際交流委員会では、毎月1回第4金曜日の昼休みに留学生が母国を紹介する「カルチャーアワー」を開催し、留学生と日本人学生の交流の場を設けています。

5月のカルチャーアワー（29日）は、日本人の学生国際交流委員が留学生向けに「日本の婚活」と題して、日本の恋愛・結婚について発表しました。日本の恋愛、お見合い、結婚活動（婚活）、結婚式、披露宴までの日本独特の文化をパ

ワーポイントで写真を用いながらの紹介は、簡潔で分かりやすく、興味深いものでした。6月26日には、同様の内容を本学日本語予備課程留学生の授業内で出張講義をしました。

「婚活の意味を知っていますか？」との問いかけに、「みんなでトンカツを食べる結婚相手を探すこと？」と答えた留学生たち。日本人にとっても新しい発見の授業でした。



学生国際交流委員と留学生

## 日本の家庭に1日ホームステイ

### 人間福祉学科2年 SHEN YUCHI 台湾 (シン イクキ)

私は日本で今年三回目のお正月を迎えました。今までは、お正月に一人で家にもっていたので、日本のお正月について、全然分かりませんでした。フレンドシップ・ファミリーに申し込んだことがきっかけで、今年の大晦日とお正月に金谷宅を訪れました。日本で大晦日に年越しそばを食べ、お正月に御節料理を食べるという習慣があります。御節料理は重箱で飾ってあって、とてもきれいでした。和風料理を作る

コツを教えてもらい、とても良い勉強になりました。1年生の私にとっては、とても良いチャンスでした。また同じプログラムがあったら、必ず参加して、次のフレンドシップ・ファミリーに台湾の御節料理を紹介したいと思います。



### フレンドシップ ファミリー プログラム

聖学院大学国際部委員会が本学留学生と日本の家族と家族ぐるみで交流できるよう企画したプログラムです。

冬休み、特に年末年始の休暇は短く、母国に帰国しない留学生多いため、家族から離れてお正月を迎えます。日本の家族と日本料理を作ったり、食事を共にし、交流を深めることができたなら、という願いから始まりました。

## 2009年度外国人留学生国別在籍状況

国籍名	合計
中国	164
韓国	22
ベトナム	16
ネパール	8
台湾	6
スリランカ	4
インド	3
バングラデシュ	3
モンゴル	1

国籍名	合計
タイ	2
ミャンマー	2
マレーシア	2
イタリア	1
インドネシア	1
英国(香港)	1
ガボン	1
	237



(2009年7月31日現在)

## お知らせ・イベント

- |       |   |    |                                       |
|-------|---|----|---------------------------------------|
| 9月    | 秋入学留学生ガイダンス<br>SEA春期海外研修留学説明会                 | 2月 | 春期海外研修ディーキン大学研修<br>(オーストラリア・メルボルン) 出発 |
| 10月   | SEA春期海外研修留学説明会                                |    | 第11回児童学海外研修                           |
| 11月   | 学生国際交流委員ヴェリタス祭<br>「アジアン屋台」出店<br>第7回留学生日本語弁論大会 |    | (オーストラリア・アデレード) 出発                    |
| 12～1月 | 春期海外研修準備講座・結団式                                | 3月 | 在学留学生 留学生ガイダンス<br>新入留学生 留学生ガイダンス      |

<http://www.seigakuin.jp/sic/>
SEIGAKUIN  
UNIVERSITY

聖学院大学 学生支援部

国際協力課

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 8号館1階

窓口受付時間

TEL 048(725)2801 FAX 048(781)0094

Email: sic@seigakuin-univ.ac.jp

月 9:00～16:00

火～土 9:00～11:30, 12:30～16:00

## 次号予告

- ・「カナダ研修中止残念!勉強会」報告
  - ・韓国とアメリカからの交換留学生の感想
  - ・第7回日本語弁論大会
  - ・2009年度春期海外研修 参加者感想
  - ・2009年度第11回児童学海外研修 参加者感想
- など



聖学院大学